

# 図書館ヒストリア

令和元年 5 月 31 日、弘前大学が創立 70 周年を迎えたとともに、附属図書館も 70 周年を迎えました。そこで今回は附属図書館の 70 年の歴史を振り返ってきたいと思います。

## 附属図書館の産声

1949 年（昭和 24）、新制弘前大学創設と同時に発足した附属図書館は、旧制弘前高等学校図書課を本館とし、旧制青森師範学校図書館を教育学部分館、旧制弘前医科大学図書館を医学部分館、旧制青森青年師範学校図書係を野辺地分校分室の 4 館体制でスタートしました。

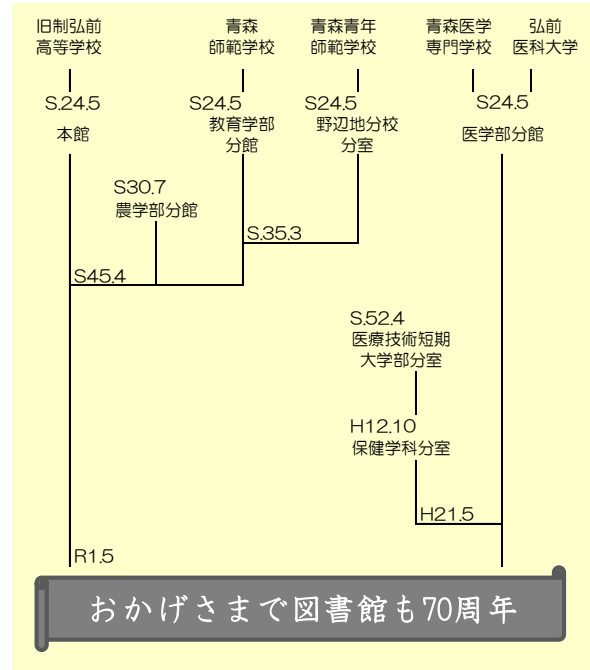
## 前身校の生い立ち

旧制弘前高等学校図書課は 1920 年（大正 9）設置。寄宿舎である北溟寮が同一構内にあったため、閲覧室は午後 9 時まで満席であることが多く、生徒のための学習図書館としての機能を担っていたようです。

旧制青森師範学校図書課は 1943 年（昭和 18）に青森市に設置されたものの、ほどなくして戦局は悪化。1945 年（昭和 20）7 月の青森市空襲により校舎を焼失したため、和漢書 1 万 349 冊、洋書 100 冊を失いました。しかし、疎開によって焼失を免れた約 3800 冊を携えて 1946 年（昭和 21）に弘前市へ移転、戦災復旧のため卒業生から寄附を受けた約 3000 冊を加えて再出発をしました。

旧制弘前医科大学附属図書館は 1948 年（昭和 23）に設置されましたが、1944 年（昭和 19）に青森市に設置された青森医学専門学校の蔵書が基礎となっています。戦前は、戦局の深刻化により新刊書籍は配給制でしたが、新設校である同校では授業とは無関係な分野の書籍が配給され、医学書に関しては古書の購入が中心となりました。戦後になり、弘前医科大学が設置された後も、特に医学関係のバックナンバーの整備を重点として蔵書の充実が図られました。

旧制青森青年師範学校は 1944 年（昭和 19）に設置された後、1945 年（昭和 20）に若干の農業関係書を持って上北郡野辺地町に移転、1948 年（昭和 23）に図書係が設置され、校舎の一部に閲覧室と書庫を設け職員 1 名を置いて業務を開始し、これがのちに弘前大学野辺地分校分室の基礎となりました。



## 支えられて 70 年

新制大学発足とともに前身校の蔵書を引き継いで誕生した弘前大学附属図書館。母体となった学校が戦災に遭い設備や図書をほとんど失っていた上に、発足後もまずは教育に必要な教材・器具の整備が急がれ、図書館資料はどうしても後回しになりました。しかし外部からの援助として青森県国立大学設立期成協力会（後の弘前大学後援会）等の寄付によって資料の充実が図られ、発足当時には約 5 万 3 千冊だった蔵書数は 70 年の歳月と共に現在約 83 万冊となりました。

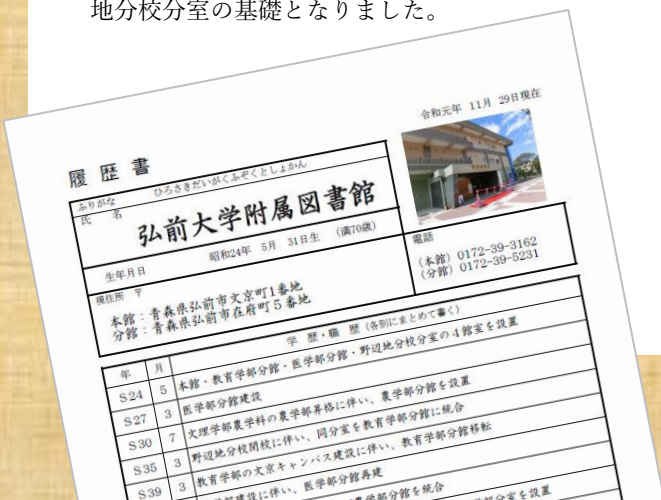
## 歴史とともに

大学と共に歴史を刻んできた附属図書館では、今現在もなお、これらの引き継いだ資料を大切に保管しており、それぞれの資料には職員が一つ一つ受入した際の蔵書印や登録印が残されています。私たち附属図書館職員は、それらを見ながら大学が歩んできた道のりに思いを馳せますと、沢山の方々のご努力・ご援助により今日の附属図書館があることに感謝の想いを表せずにはられません。そして、そのことをしっかりと胸に刻み、さらなる発展を求めて 71 年目の歩みを進めてまいりたいと思います。

>>>> 次のページでは様々な角度から図書館の歴史を振り返ってみたいと思います。



←図書館の履歴書を詳しく見たい方はコチラへ！



1949.5

・開学 & 附属図書館設置

1952.3

・医学部分館建設

1955.7

・農学部分館設置

1960.3

・野辺地分校閉校により  
分室を教育学部分館に統合

1964.3

・教育学部（弘前公園内）の  
文京キャンパス移転

1968.3

・医学部建設に伴い  
分館再建（現在の建物）

1970.4

・本館建設（教育学部分館及  
び農学部分館を統合）

1977.4

・医療技術短期大学部設置  
に伴い、医短分室設置

1984.3

・本館増築（現在の雑誌棟）

1986.3

・図書館システム導入（電算化）

### ～蔵書印から見える図書館の歴史～

附属図書館の蔵書には、前身校のものを含め各館の蔵書印が押されています。本の内側に付されたそれらを集めてみました。どの館のものか、是非観察して当ててみてくださいね！



上段左より：弘前高等学校,野辺地分校,本館（方印・円印）  
中段左より：青森青年師範学校,青森師範学校, 医学部分館（円印・方印）  
下段左より：青森医学専門学校,弘前医科大学,農学部分館, 教育学部分館  
右上：医学部分館（楕円印）

### ～図書館職員の仕事の跡～

資料の登録作業も、時代を追うごとに変化してきました。1986年の図書館システムの導入により、図書には登録印にかわり OCR やバーコードラベルで登録番号が貼付されるようになりました。



旧制弘前高等学校の登録印  
登録印と背ラベル（青:和書 赤:洋書）



浮出蔵書印（所蔵館名が資料にエンボスされました）  
OCR・バーコードラベルの登録番号

### ～過ぎし日の図書館～

昭和初期には手書き原簿と和文・欧文タイプライターを駆使し目録カード\*を作成していました。蔵書印と背ラベルも和書は紺色、洋書は赤色で区別していましたが、電算化後は紫色に統一され、洋書には赤色の「洋」印が押されています。（職員Yさん談）\*目録カードの説明は次頁へ

### ～記念すべき登録第1号図書 「実は…」～

本館（当時は旧制弘前高等学校）の登録第1号はこの『平家物語評釈』。（1921.3.10 登録）沢山使われていたと見え、修理製本して現在も本館で所蔵しています。

かつて図書館には製本室があり、独自で製本を行っていましたが、修理するときに表紙の天地（上下）を逆につけてしまった跡が見られます。



幻の蔵書第1号  
医学部分館

医学部分館（当時は青森医学専門学校）の蔵書第1号は『輝く肇国』（1944.5.18 登録）でした。しかし、GHQ から「備付不相当」として焼却処分を命ぜられ、1946年3月21日に除籍処分されてしまったことが、図書台帳から分かります。

70周年にちなんで

### 70...700...7000...70000 キリ番を探せ！

「キリ番」の登録番号を持った資料を探してみました！

- 第70号（青森医学専門学校→医学部分館）  
『日本伝染病学会雑誌』第6巻（1944.8.18 登録）
- 第700号（農学部分館→本館）  
『臨床獣医外科』（1952.9.13 登録）
- 第7000号（旧制弘前高等学校→本館）  
『人文地理学概論』（1934.5.11 登録）
- 第70000号（本館）  
『農学成立史の研究』（1967.7.1 登録）

1993.10

・ 附属図書館報『豊泉』創刊

1996.3

・ 図書館ホームページ開設

1996.4

・ 日曜開館スタート

2000.10

・ 保健学科設置に伴い  
保健学科分室に改称

2002.4

・ 電子ジャーナル導入

2004.4

・ 国立大学法人化

2008.5

・ 学術情報リポジトリ公開

2009.5

・ 医学部分館改修  
・ 保健学科分室と統合

2011.11

・ デジタルアーカイブ公開  
第1号「津軽領元禄国絵図写」

2014.10

・ 本館改修&リニューアル

2019.5

・ 弘前大学創立七十周年

東北地区の大学・初!

図書館も70周年!

### ～今じゃ当たり前のアレが～

今でこそインターネットですぐに資料の所蔵場所や必要な文献情報・論文に辿り着くことができますが、その昔はどうだったのでしょうか?

図書館にコンピューターが入る前、同じ役割を果たしていたのは、目録カードや冊子体目録でした。

目録カードは、基本・分類・書名・著者名の各種のカードが入った小さな引き出し(カードボックス)に規則に基づいて配列され、それらを引き出して必要とする資料の情報や所在を検索していました。

この引き出し、時々、雑誌などで見かけませんか?



冊子体目録。左から「増加図書目録」「学術雑誌目録」「逐次刊行物所蔵目録」



目録カードとカードボックス



### インターネットの出現により……

1995年から、オンライン検索サービスが開始。本館に設置された検索用サーバには各種データベースのCD-ROMがセットされ、総合情報処理センター(当時)のLAN設備を介して全学から情報検索することが可能になりました。



### ～古地図片手に津軽の旅～

2008年8月、官立弘前高等学校関係資料の整備作業中に、郷土資料の書庫から偶然発見された「津軽領元禄国絵図写」は、デジタル化され、附属図書館HPから誰でも閲覧できるようになっています。



岩木山に登ってスマホで絵図を開いて眺めてみたら結構面白いかも?

### ～電子ジャーナルと電子ブック～

#### ～学術情報リポジトリ～

図書館は建物と資料だけが図書館ではありません。今やアナタのPCやスマホが図書館です。

2002年4月の導入以降、整備を続けた現在では約7000種類の雑誌と約5000種類の電子ブックが利用できます。端末を開けばもうすでにそこはバーチャルな図書館なのです。

2008年5月から開始した「弘前大学学術情報機関リポジトリ」は現在約6000件のコンテンツが公開され、誰でも無料で閲覧することができます。また2011年2月からは「ひろさき地域共同リポジトリ」で市内の大学・短大共同で研究成果の公開も行っています。

### ～広報活動のあゆみ～

利用者の皆さんと私たち図書館をつなぐもの。現在の図書館報が誕生する前にも様々な刊行物が作られました。

ガリ版刷りやワープロ原稿の1ページ1ページに、当時携わられた方の想いを感じ取ることができます。



左から「図書館短報」「THE NEPUTA」「Library Today」

### ～創刊50号・私たちが受け継いでいくもの～

図書館報『豊泉』1993年10月に創刊。第1号には、松原邦明附属図書館長(当時)の「利用者とのコミュニケーションの拡大とサービスの充実発展を図る方途」の1つとして図書館報を位置づけた発刊趣旨が掲載されています。

50号を迎えた今、今後もこの発刊趣旨に沿いながら、利用者の皆さんとのコミュニケーションツールとして楽しんでいただけるような図書館報を作りたいと思います。



豊泉 No.1



豊泉 No.26



豊泉 No.29



豊泉 No.40



豊泉 No.50